



Rotary
Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報 No.383 2016-2017 No3

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／横山 幹夫 副会長／澤田 正樹 幹 事／大澤 勇 雑誌会報委員長／石橋 恒生 副委員長／田中 義明
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「楽しもう、そして何ができるか考えよう」

Enjoy Club Life and Think what We can do!



RI President

John Germ
2016-2017年度国際ロータリー会長



「三東会（大阪東・京都東・神戸東 RC の会）盟約締結調印式」にて



2016 - 2017 年度神戸東ロータリークラブ

第 63 代会長 横山 幹夫

神戸東クラブの 2016 ～ 17 年度の活動を終えるに当たって、ご挨拶を申し上げます。

2 年半前に会長ノミニーに指名されましたことは随分昔に感じますが、会長としてのこの 1 年は瞬間に過ぎ去ったような気がします。週が明けるとすぐに例会を迎え、例会を終えるとあっという間に 1 週間が終わるといふ繰り返しでした。今までになく緊張感のある 1 年だったと思います。また、このところよく夢を見るようになりました。それもロータリーのことだけではありませんが、やたらと何かを考えている夢です。それほど意識していたわけはありませんが、やはりプレッシャーを感じていたのだと思います。これからはきっと楽しい夢を見ることになるでしょう。

さて、私にとっては無我夢中の 1 年でしたが、皆さんにとってはどのような 1 年だったのでしょうか。本年度が始まるに当たって、ロータリーの目的は知り合いを広めることによって奉仕の機会とし、各自が職業上の高い倫理基準を保ち、個人としてまた事業及び社会生活において奉仕の理念を実践すること、すなわち職業奉仕が第一義であるとお伝えしましたが、如何だったのでしょうか。その実践のために

例会、親睦会、委員会、同好会等の会合がお役に立ったのでしょうか。他のロータリアンから多くのことを学ぶことが出来たのでしょうか。年度の終わりに当たってこの 1 年間、神戸東ロータリークラブに所属して何が出来、何を得たかを皆さんにもそれぞれ振り返っていただければと思います。

個々の事業については後日お配りするクラブ活動年次報告をお読みいただきたいと思いますが、全体の活動について大まかに振り返ってみたいと思います。

まず、クラブ奉仕の分野では合計 47 回の例会を無事に開催することが出来ました。早い時間からの周到な受付、会員の話を中心に充実した卓話、そして例会出席率の向上等、委員会の皆さんの不断の努力の賜物だと思います。また、例会の内容を正確に記載した週報や各事業や催しを丁寧に取材した会報の発行もクラブが何をしているかを知るうえで大いに役立ったのではないのでしょうか。さらに、規定審議会で大きく変わった会則も我がクラブに相応しい細則に変更できましたし、会員増強においても残念ながらお二人のご逝去者を含む 10 名の退会者が出ましたが、9 名という近年では最も多い新会員を迎え入れることが出来たのはうれしい限りです。また、忘年家族会、創立記念例会、家族旅行、会員親睦会も例年にも増して楽しい企画ばかりで揃って楽しむことが出来ました。ロータリー財団、米山記念奨学会向けの寄付に対してもご協力ありがとうございました。財団に対しては財団創立 100 周年ということもあり、大口の寄付もあって従来最高額を大幅に上回ることが出来ました。

奉仕プロジェクトの分野では残念ながら今回で最後になりましたが、中央区少年団野球大会を始め王子公園写生教室、青陽東養護学校・友生支援学校を招いてのボウリング大会等の従来からの事業を成功裏に継続することが出来ました。さらに今年度から

取り組みました地区補助金事業の福祉事業所でのお菓子作り支援も立ち上げには苦勞したもののマスコミにも取り上げられ、地区からの評価も高く次年度に発展的に繋がったのは素晴らしいことだと思います。さらに、2年間にわたる米山奨学生のお世話が終了するのに呼応するように、推薦した地区奨学生が採用され今年の9月にイギリスに留学することが決まりました。

他にも他地区の大阪東・京都東両クラブと友好クラブの関係を結べたことはクラブライフの幅が広がり新たな魅力を生み出すのではないかと期待しております。いずれにしましても、担当した人、応援した人すべての努力の結果で本年度も無事終わることが出来、ほっとしております。会員の皆さんに感謝いたします。

最後になりましたが、いつも冷静沈着にアドバイスをして支えてくれました澤田副会長、年度初めに大病を患ったにもかかわらず、そこまでなくてもいいと思うくらい丁寧にきっちりと会務をこなしてくれました大澤幹事そして無理をよく聞いてくれた事務局の皆さんに感謝いたします。

今年1年会長という役割を演じ、良い思いをさせていただきました。皆さんも会長の声がかかりましたら進んで引き受けられることをお勧めして退任の挨拶といたします。ありがとうございました。





副会長 澤田 正樹
クラブ奉仕委員長

横山会長のテーマは、楽しもう、そして何ができるか考えよう！でした。このテーマには、神戸東ロータリークラブの活力を何とか引き上げたいという横山会長の思いが詰まっているように感じています。実際、社会奉仕事業として行われた、障がい者就労施設への支援事業は、会長の思いの詰まった事業でした。福原会員による熱血指導があり、また、クラブの20人超の会員が参加し、むつみ会からも多くの参加をいただき、非営利組織クルーズさんの協力もあり、大いに活況を呈した、2680地区の中で、とても注目された事業となりました。我々クラブ員ができる障がい者の就労支援事業って何があるだろうと模索する中、間接的な形とはいえ、障がい者の収入増や就業に繋がるヒントになる価値ある奉仕事業だったと感じています。

副会長はクラブ奉仕委員長でもあり、8つの委員会をサポートする立場にあります。この1年を通して、例会がスムーズに運営され、内容のある例会が行われ、会員相互の友情も、いろいろな行事を通して絆が強まったと思っています。

今年度は、定款細則変更の年度でした。私も変更作業に参加させていただきました。さて、今回の改定は、RIが、ポリオ撲滅事業、世界平和センター事業、グローバル補助金奨学生事業など、世界規模で

事業展開する状況で、じゃ、クラブは、どのような役割を担っているかということ、明確に規定した会則変更であったと思っています。今回、新しい定款の第3条にクラブの目的という項目が設けられました。その中で、RIは、クラブに、会員増加、ロータリー財団への支援、即ち、寄付金等による財政的支援を明確に求めています。RIが世界的活動を行う上で、欲しいのは、会員数の増加とそれに伴う寄付金の増額に尽きます。確かに、RIが行なっている事業の多くはかけがえのない価値の高い事業ばかりです。中でも、ポリオ撲滅は、これからの地球を支える子供達を救う、とても尊い、貴重で重要な事業です。しかし、お金はかかります。私は、RIへの寄付を拒否するものではありません。むしろ、積極的にさせていただいていると思っています。

他方、定款には、クラブの活動に対して、自治権と称して、自由に活動してください自分達で考えて好きなようにして構いませんと突き放しているような記載になっています。これだけを見ると、RIは、クラブをRIの集金マシンとしてしか考えていないのかと思えて来ます、憤りすら感じます。しかし、視点を変えて考えてみると、問題は、RIにあるというより、我々がロータリー活動をどう考え、我々のクラブをどの方向に持っていくかを、我々が真剣に考える機会を与えられているのではないかと思います。我々の覚悟が試されている転換点にいると感じます。私は、ポジティブに受け止めて、この神戸東クラブが大事にしてきた、職業奉仕理念を根幹に据え、奉仕活動を実践していくんだという決意と姿勢を明確にするいい機会と思っています。

この1年、いろいろと経験もし、勉強もさせていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

横山会長、大澤幹事、皆さまに、たくさんいただいた奉仕と友情に感謝の気持ちでいっぱいです。

この一年間、本当に、有難うございました。



幹事
理事 大澤 勇

2016～2017年度幹事職を何とか無事終える事が出来ました。

幹事就任直後に、健康上の都合により連続で例会を欠席するという、歴代幹事の中で例の無いスタートとなりましたが、皆様のご指導・ご協力のお陰で乗り切る事が出来ました。

私は、パソコン・タブレット・携帯等の電子機器の取り扱い是不慣れなアナログ人間なので、事務局との連携もこの様な機器に頼らず、現場に行き行って処理しないと済ませられない性格です。ですから、この1年間先ず例会日の火曜日・翌週例会の段取りの為に金曜日・翌週例会日の直前月曜日と、週3日は事務局に足を運びました。それと各委員会の事業・地区の研修会等を週合わせると、多分1年間の半分はロータリー活動に関わりました。逆に言えば、ロータリー活動の時間を作る為に、自分の仕事を如何に効率的に処理するかを考えさせられました。本当に有意義な時間を持ってたと感謝する次第です。

今年の会長方針「楽しもう。そして何が出来るか考えよう」というテーマに沿って、今年のクラブ運営の中で何点か取り上げますと、

① 既存の事業に対して、引続き継続するかそれとも個別支援への転換を含めて一区切りつけるかを慎重に考えました。例えば「中央区少年団野球大会」

と「熊森支援事業」に関しては一応区切りをつけさせて頂きました。

各事業にはそれぞれに、事業を立ち上げた方の思いが引き継がれている訳で難しい選択でした。

② 新しい事業として、社会奉仕委員会のロータリー財団補助金事業があります。

NPO法人クルーズと協議し取り組んだ「障がい者の就労支援事業」です。

お菓子作りをしている障がい者福祉事業所を公募し、その中で選定した事業所に対し業務用のオーブンや卓上ミキサーを贈呈し、同時にお菓子作りの技術指導した上で販売協力まで支援する事業です。

本年下半期より、生産したお菓子をお誕生日祝いとして皆様へお届けする事が出来ました。

③ 青少年奉仕委員会と国際奉仕委員会の共同事業として、「王子動物園・絵画教室」と「ピース&ネイチャーの田植え事業」を開催しました。青少年育成と国際親善を兼ね備えた新しいタイプの奉仕活動です。

④ 年間47回の例会の内、外部卓話はたった6回です。残りは会員卓話と地区関係者のものでした。人材が集結する我がクラブの素晴らしさを改めて実感した次第です。

⑤ 本日の含め9名の入会者を得ましたが、10名の退会者がある為に1名の減でございます。昨今のロータリーの会員数の減少や社会状況から考えますと、善戦したほうではないかと考えます。

この他、3年に一度のクラブ定款・細則の変更・友好クラブ「三東会」の締結・ロータリー財団100周年記念学友シンポジウムに対する協力等、多数の報告がありますが、時間の関係で割愛させて頂きます。

最後になりましたが、力不足の私を支えて下さった横山会長・澤田副会長、そして事務局の橘さん、横田さん、西村先生、むつみ会の皆様に改めて感謝し、退任のご挨拶とさせて頂きます。



コーラスとヴァイオリンとピアノで盛大に創立記念家族例会を開催



4月11日(火)に第63回創立記念家族例会をホテルオークラ神戸「平安の間」にて会員83名、ご家族22名、米山奨学生、事務局を含め、総勢110名にて開催をいたしました。むつみ会様、コーラス同好会の皆様による素敵なコーラスをご披露いただき創立記念家族会が開宴、嘉納会員による乾杯のご発声、また、創立を振り返り、執行会員、角田会員の2名から、貴重な体験談やクラブの歴史、考え方など多くを学ばせていただくお話をいただきました。

また、出席委員会の山本康一郎委員長から、皆出

席の発表と表彰があり、代表で執行会員、木下会員、向井会員、山野会員の4名から、皆出席の秘訣などのお話をいただきました。

終盤には、創立記念家族例会を飾る、ヴァイオリンとピアノの素敵な演奏で会を盛り上げ、澤田副会長の中締めで閉会となりました。ご参加いただきまして、ありがとうございました。

盛会でありましたことをご報告いたします。

(家族委員長 菅野 和矢)





三東会（大阪東・京都東・神戸東 RC の会）を設立致しました



本年5月27日に帝国ホテル大阪で大阪東 RC60 周年記念式典が開催されました。式典直前に「三東会盟約締結調印式」が執り行われ、式典進行の中で賑々しく発表されました。

此処に至るまでの経緯を説明しますと、昨年12月13日例会直前に吉井会長エレクトの卒業大学のOB会副理事長で、2016～2017年度国際ロータリー第2660地区片山勉ガバナーエレクトから相談したい件があるとの事で、ホテルオークラ神戸「ブライダルの間」で、横山会長・吉井エレクト・大澤幹事・片山ガバナーエレクトで懇談を致しました。その中で、大阪東 RC の60周年事業の一つとして、三都市友好クラブ締結の話が示された訳です。

国内友好クラブの結成を目的とする国内他地区のクラブとの交流は、従来縁が無かった地域のクラブ会員並びに会員家族との出会いの場となり、新しい輪が生まれることにより親交と楽しい交流が得られ、クラブの活性化の一助となると確信致しておりました。

その様な訳で、最初の懇談で前向きに取り組む合意がなされ、以後のスケジュールが確定し、3月20

日に帝国ホテル大阪で3RC 発起人の初顔合わせがありました。この場で「三東会」の名称が決定し、以後の決め事は幹事・副幹事で協議する事となりました。その後4月13日に3RCの幹事・副幹事と式典実行副委員長の大阪東 RC 樋口副会長で協議を致しました。この幹事会の中で①調印式の次第②式典全体の概要の説明③今後の担当者会の開催時期④持ち回り担当クラブの順番⑤今後の三東会の企画内容⑥式典当日の会費・祝い金・ドレスコード等を決定致しました。それから幹事会で確認されたもう一つの事項は、「最初から焦らずに少しずつ交流を深め、長く続けられるような会にしたい。その為に負担にならないようにしたい」との総意が確認されました。

以上の様な経緯を経て式典に臨んだ訳ですが、その次第進行が非常に見事で、参加した我がクラブメンバー（本年度三役及び次年度三役の6名）は一律に感嘆し、今後の我がクラブの式典進行の手本にすべきとの意見がでました。

（文責：幹事 大澤 勇）

会員随想「神戸東 RC 昨日・今日・明日」

須藤 雄二

平成元年に、今は亡き八馬会員と木下章夫会員の紹介で入会した。新入会員のオリエンテーションは、これも今は亡き末政会員と光葉会員から受けた。例会場は、震災で全壊した神戸国際会館8Fであり、食事が平均年齢の高い会員の方々向きとは思われないような濃厚なものであったことを覚えている。30年近くクラブにお世話になり、自分が中間から少し上の世代になってきた今、過去から現在のクラブを見てきたものとして、これからのクラブの有り様を様々な視点から書いてみる。

国際情勢の変化とロータリーインターナショナル(RI)の変化からの考察

21世紀に入ると、自由貿易の名のもとにファンド資本主義ともいえるような経済活動が行われ、製造施設が人件費の安い国へ移転し、先進国の中間層の所得が伸び悩んでいる。これに伴うように、先進国のロータリアンの数は減少し発展途上国で会員数が増加してきている。また、嘗ての様な大型クラブも減少し、少人数のクラブが増えてきている。RIではこの変化に対応するように種々の定款細則の変更を行ってきている。そこに流れる大きな方針は、R財団を中心に資金を吸い上げ、地区主導の元、いくつかのクラブがまとまって奉仕活動を行い、それを積極的に広報すると共に、職業が無い方の入会も認める等間口を広げ、ロータリーの会員数の維持増加を図っていくという中央集権主義のように見える。このRIの方針変更は、RIという体制を維持する為に、1990年代から長い年月をかけて段階的かつ戦略的に考えられた施策であることは間違いない。これは特に日本で歴史の長いクラブの会員には面白くない内容となる。なぜなら、長く教え込まれてきた、クラブの

自主性に基づいた職業奉仕を主体とした奉仕活動の在り方が根本的に見直されているからである。この流れを止めるには、日本ロータリーが、積極的にRI理事会や規定審議会において発言していくことしかないが、それが行われているようには見えない。また、今入会してくる会員にとっては現状が当たり前であり、時と共に新しい方針に沿ってクラブ運営をしていくことになる。我がクラブはその歴史や会員構成の面で過渡期にあり執行部には新旧の思いのバランスの取れた運営が望まれる。

地方都市におけるロータリークラブの出来方からの考察

何処の主要地方都市でもまず、商工会議所の主だったメンバーによりその都市の名前の付いたロータリークラブが出来、そこから派生して地場産業の経営者が主体となる 東、西、南、北、等のクラブが作られている。当然商工会議所は全国規模の上場会社の支店長や支社長が多く、当然のごとく転勤が多い。クラブによっては毎年1/4から1/3のメンバーが転勤で入れ替わっていく、一方、地場の経営者で構成されたクラブではメンバーの入れ替わりは少ない。当クラブは、メンバーの入れ替わりの少ない地場経営者主体のクラブであり、長い楽しい付き合いの中で培われた仲間意識と信頼関係を持ってともに奉仕活動をしていくことがクラブの活気に繋がっていくと思われる。

神戸市の産業構造の変化からみた考察

神戸商工会議所の会頭が重厚長大産業出身者ではなくなったことがこの町の変化を如実に表している。神戸市が多くの雇用を生み出す新たな産業育成に成功するのか、或は、このまま大阪のベッドタウンになっていくのか、おおきな岐路に立たされたていることは間違いない。また、震災など大災害が起こら



ない限り、東京への一極集中の流れが変わる様にも見受けられない。このように考えると神戸での総体的な会員増強には悲観的にならざるを得なく、神戸市のロータリークラブはこれから統廃合が進むと考えられる。このような場合世の中の常として、全クラブが平均に会員数が減少するのではなく、極端に会員が減り解散を余儀なくされるクラブと、維持できるクラブが両極端に分かれると推察される。その中で、神戸東クラブは地場産業中心の雰囲気の良いクラブとして間違いなく残り続けて行く。

解散していくクラブからの考察

近年当地区でも解散するクラブが出てきている、それぞれに諸事情はあると思われるが共通している事は、若手新入会員が入らない、それ故、毎年平均年齢が上がり、クラブ活動が低下していき、ある時点で継続不可能に陥るという事が挙げられる。また、他クラブの事例を見るに一度会員数が大幅に減ると中々回復しにくいという事が判る。その中で、会員の中に全体を極端に仕切る人物が出ると残存会員に不満がたまり、結果として新たな退会に繋がっている。当クラブも会員数が100人を割ると、予算面からクラブの運営方法を根本から見直すことになる。会員数は110 - 120名を維持するべきと考える。数十年前には40歳でJCを卒業する時に、歴史が有り著名な会員がおられるクラブからの声掛けを待ち望んでいたが、現代の若者はクラブに入ることが自分或は自分の事業にどのようなメリットが有るのかという発想が優先すると見受けられる。また、定款細則の適用を厳格に行わないクラブに会員数が増加している傾向もある。各クラブが会員獲得競争をする中で、若い会員の獲得をするためには、当クラブが何処に魅力ある特徴を出すかだけでなく、どのようなメンバーがどのような活動をしているかを外部に分かりやすく発信することが重要となる。

当クラブの成立ちからの考察

組織運営には組織の核や幹となる人材グループが必要となる。入会した平成元年には、一部のチャーターメンバーの方もまだ健在であり、その方々を核に、それに続く青年会議所の理事長経験者や若い時にテニスで繋がったグループ等が中堅を占めていた。では当クラブの次の世代ではどうなるのかを見渡すと、嘗ての様に価値観を共有する強固な一体感を持った一団は見受けられない。しいて言えば、多くの会員が参加し活発に活動している同好会がその役目を担っていくと考えられる。活発な同好会活動を通じた親睦がクラブ会員同士の一体感の形成に役立っていくと思われる。

例会からの考察

平成元年に入会した時に例会は厳かな緊張感のある雰囲気、ロータリアンとしてのプライドに満ちていた。当時の会員平均年齢が58歳、現在は65歳に近づいており年齢は上がっているが、厳かな緊張感のある雰囲気は落ちたのではないだろうか、また、私語も増えたように見受けられる。場の雰囲気はそこに参加している人々が醸し出す物であり、一つの原因として怖くて口うるさい年寄りが居なくなったことが挙げられる様に思われる。若者がクラブに活気を与え、高齢者がクラブに緊張感と威厳を与えるわけであり、古い会員の皆様には是非煙たい親父になっていただくようお願いしたいと共に、若者はそれを小うるさい小言ではなくクラブへの愛と捉えて、両者がお互いを尊重し合って程よくバランスの取れたクラブを目指すべきである。また、例会が楽しく有意義でないと感じる意味が無いのであり、会員の知的好奇心をくすぐるようなプログラムを考えると共に、すべての会員が和気あいあいと楽しく一時間を過ごせるような配慮も必要かと考える。

会員増強、選考からの考察

会員に増強についてアンケートを取ると大体において、会員の数をやみくもに増やすよりも質が大事という結果が出る。では会員の質とは何か。経営で成功した人なのか？ メディアで有名な人なのか？ 性格の良い人なのか？ また、「入りて学ぶ」という入会してからの啓蒙は可能なのか？ 数を確保しながら質が保たれるのか？ 何故創設期の RI が一業種一人としたのか？ 私の中ではこれについての明確な答えは未だない。ただ一つ言えることは、我がクラブにおられる会員は、バランス感覚に優れ、極端な自己主張をすることも無く、頼まれた活動は自主的に気持ちよく協力していただける方ばかりという事を感じている。執行部もあえて会員を仕切り管理するという事も無く、曖昧模糊とした柔らかい空気の中で皆が上手く強調してクラブが成り立っている。これが神戸東のクラブ風、或は、会員の質といって良いならば、これを続けて行くべきと思う。また、当クラブの近々の課題である女性会員の入会については、もうすでに議論は出尽くしており、後はどのような方に入って貰うかを考える時期に来ていると思われる。

変化という事からの考察

組織を潰すには何もせず同じことを続けて行けばよいという言葉が有る。有史以来、環境変化に対応できない生物種は絶滅していく。我々も今までのやり方に固執するあまり絶滅危惧種に陥ることは避けなければならない。最初にも書いたように、RI の方針変更は、緻密な情報分析に基づいて、1990 年代から長い年月をかけて段階的かつ戦略的に考えられた施策であることは間違いない。欧米ではスポーツでもルールは時と場合により変えるものだが、日本ではルールの変更を嫌う傾向が有る。自ら発案して自らを変えていくことも重要だが非常なエネルギーが必要に

なるのと、内部に摩擦を生みかねない。当クラブでは、他クラブでのメイクアップや周年記念例会への参加者からの情報や、神戸 3 クラブ交流会や今年発足した、神戸、京都、大阪の三東会での情報交換を通じて、他クラブが実施している新しい取り組みについての情報を集め、有意義と思われることはどんどん取り入れていくことが肝要かと思われる。

以上、色々な切り口から当クラブの現状や明日を、ひとりでラウンドテーブル会を開催したつもりで見通してみました。これを読んで会員の皆様それぞれに異論、反論、ご意見が有ろうかと思えます。皆様が当クラブの将来を考える一助となれば幸いです。



崎山 豊
- L & P 司法書士法人 -

この度は、伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させて頂き誠に有難うございます。新入会員の崎山と申します。よろしくお願い申し上げます。

私の職業は、司法書士です。

司法書士は、事業承継、会社設立、会社の各種変更手続き、個人の贈与、相続などの資産承継業務、不動産の売買における名義変更手続きを担保するために代金決済時の立会い業務などのリーガルサービスを法務局が管轄する登記手続きを中心として依頼者に提供しております。

弊社は、「L & P 司法書士法人」という名称で神戸元町・大丸の東隣（三菱東京UFJ銀行神戸支店のビル）、大阪・梅田、東京・虎ノ門の3拠点で司法書士法人を運営しています。

司法書士法人は、昨今、司法書士に対応を求められる事案が「複雑化」し、かつ「長期の対応」を要する事案が増えるなか、複数名の司法書士が「法人」として司法書士事務所を運営することにより、依頼者様に「永続的な」リーガルサービスを提供すること可能とする制度です。

更に我々は、次の2つの別の職能をもつ法人を

L&P グループ法人として活動することにより、司法書士法人と併せて、所属各資格保有者40名、広域で迅速な対応を心がけて日々業務遂行をしております。

L & P グループ法人

L & P 土地家屋調査士法人

主たる業務 土地・建物の測量、並びにそれに伴う登記業務

L & P 行政書士法人

主たる業務 各種許認可、その他権利義務又は事実証明に関する書類の作成

また、グループ全体の取り組みとして、高齢化社会の中にある専門家集団として、「AtoZ」というオリジナルエンディングノートなどを出版し、「事業承継」、「遺言作成サービス」、「後見サポート」など依頼者の皆様が安心して老後を過ごせるためのリーガルサービスを提供しております。

と、ここまでは、私の職業・弊社のご紹介です。

折角、紙面を頂戴しておりますので、私、崎山個人の紹介もさせて頂きたいと思っております。

昭和48年11月13日 神戸で生まれました。幼少期は、垂水区、須磨区で過ごします。

神戸高専（旧六甲高専）を3年次終了し、平成5年 司法書士を志し、兵庫区の司法書士事務所に勤務を始めます。その後、その司法書士事務所に勤務をしながら受験をし、平成13年 司法書士試験に合格、平成15年、師匠である司法書士事務所所長の了解を得て独立起業し、前述の司法書士法人グループの形成を共同経営メンバー3名と手掛け、現在に至ります。

私の住まいは、明石市の上ノ丸という地域、JR明石駅北側、さくらの花見で有名な兵庫県立明石公園の東隣に広がる住宅街の一角にあります。

家族は、妻 慶子、長男 麟太郎、長女 いろ葉、猫（メス） ニコ、金魚（性別不明） 1匹、あと、倉庫にカブトムシの幼虫 20匹以上（長男のペット…現在、性別不明ですが、あと数か月で判明する予定。）です。

趣味は、ゴルフ！

と言いたいところですが、先輩に連れられて、初めてゴルフクラブを握ったときから13年の年月が流れました。しかし、そのころから現在に至るまで揺るぎない「低位安定」の実力です。

ただ、昨年、夏、一念発起してゴルフスクールに通い始め、目下、特訓中でございます。

めでたく「低位安定」を抜け出せればコンペの末席に入れていただけると幸いです。

少しでも私を知って頂ければという思いで書かせていただきました。

昨年9月27日、神戸東ロータリークラブに入会をさせて頂き、毎週の例会、クラブの活動を通じて先輩の皆様と出会えることを楽しみに参加させていただいております。

若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





渡邊 英一郎
—秀和—

昨年12月に入会しました渡邊英一郎です。

父は神戸出身で、母は長崎出身です。

昭和35年初めに東京都葛飾区で生誕し、1歳半からはずっと神戸で暮らしています。

星陵高校卒業後一年の浪人生活を経て、神戸商科大学に入学し、なんとか4年で卒業しました。

大学生活では将来の自分像を探しながらアルバイトに明け暮れ、大学4回生の時にためていたお金を頭金に、銀行で融資をお願いし、8世帯のアパートを購入し、大家業を始めました。万が一にも将来会社を辞めた時に、『ごめん、やりたい事が出来たので、会社を辞めたけど、このアパートの家賃は全て家計に入れるから、しばらく好き勝手させてください』とまだ見ぬ妻に言える状況を作るのが目的でした。

昭和54年に株式会社平泉洋行に入社しました。

入社1年半で、その後ライフワークとなった離型剤の販売業務につきました。

離型剤というのは、金型の中に注入したゴムやプラスチック等の材料が固まった後、金型から製品がスムーズに離れるような働きをする薬品です。

その中で、私が取り扱った商品は、簡易なテフロン加工のような働きをする商品でした。

そして、最初に私が任されたのは、ゴム業界用に輸入販売をしている離型剤の、FRP業界に対しての販売可能性を探るというものでした。

当初の3ヶ月の間に、幸運にも何件かの新規のお客様を獲得できたことで、引き続きこの商品の担当となりました。その後は、商品力があつたことに加え、たまたま人の縁に恵まれたこともあり、お客様からの口コミの数珠繋ぎで、日本中を営業で駆け回り、その3年後には、日本中で6割程度のマーケットシェアを持つに至りました。

その後に担当した商品も、それなりに順風満帆で、非常に楽しく充実したサラリーマン生活を送っていたのですが、非常に仲の良い先輩に、すごく条件の悪い転勤の話があつたのをきっかけに、平成3年に退社しました。

10年後の自分の将来像とダブって見えたからです。

大家業を始める時に頭をよぎったことが現実となりました。

幸い入社以来のケチケチ大作戦のおかげで、借金は完済できておりました。

平成4年にアメリカの離型剤の販売を一人で始めました。

離型剤の販売を、自らの仕事として選んだ理由は『非常に特殊で小さい商売でありながら、相当広い市場を持っている』ということでした。

また、離型剤販売が、各メーカーにとって小さな売上しか見込めないため、担当者がほぼ2年毎に変わる腰掛け仕事で、どこにもプロフェッショナルの販売員が存在していないという状況でしたので、『プロになれば、商品だけでなく、自らの存在までが、キャッチフレーズになるのではないかと考えて、勝負に出ることにしました。

次に『現行品より2～3割高い値段設定にしよう』、そうすれば、『二番煎じで無名の後発品のくせに、なんでそんなに高いのか?』と尋ねてもらえ、商品説明の機会が得られるかも?という作戦を実行し、商品力もあったおかげで、1年ほどで、この業界では『なんか最近面白い離型剤があるらしいで』という噂が出てくるようになりました。

さらにその後一年のうちに、事業所を維持できるだけの固定費を安定して稼げるようになり、平成5年にサラリーマン時代の先輩と一緒に会社を立ち上げる事が出来ました。

その後順調に業績を伸ばしていたのですが、多くの先輩方と同じように、平成7年の阪神大震災に襲われ、会社とそのため建てたビルが全焼してしまいました。

やりたいことにチャレンジして、完全に失敗したと思い、妻に『これからは新聞配達でもして生きていこうかな』と話したところ、『じゃあ、違う新聞の配達を私もするよ、それなら同じ日に休めるから、たまの旅行でも楽しみに生きていこう』と心にしみる言葉をもらい、再起の力をいただきました。

思い起こせば、この時に夫婦の力関係が、完全に妻上位となり、それから今に至るまで、その関係を変えことなく幸せな夫婦生活を続けています。

全ての商品を広島に在庫していたこと、販売を全国に展開していたことが幸いし、この状態でもなんとか数日後には業務を再開することができました。また、受取手形もすべて焼失しましたが、後日全てのお客様から全額入金して頂きました。この時は日本に生まれて本当に良かったと心から感謝しました。

その後の5年間は、大きな問題もなく、右肩上がりの成長を続けました。

平成13年に世界最大の離型剤専門メーカーとJV『ケムリースジャパン株式会社(現在はケムトレンドジャパン株式会に社名変更)』を設立し、それまで経営していた会社は、秀和に名称変更し、ホールディングカンパニーになりました。

私は、ホールディングカンパニーの社長と、JVの専務・社長を歴任した後、昨年9月JVの代表取締役を後輩に譲り、ホールディングカンパニーである秀和株式会社の社長に専念することにしました。

この期間中に、タイヤをはじめとする自動車用のゴム製品、カーボンコンポジットなどの様々な業界においてトップシェアを獲得していきましたが、その活動内容については、アメリカ本社との契約で固く口止めされていますので、お話できないことが非常に残念です。

以前から樋口君にロータリークラブへの加入を勧めていただき、関心を持っていたのですが、到底出席率を充足することができない状況でしたので、JVの社長を引退すると直ぐに、加入の願いを提出し、皆様のお仲間になることができました。

ほとんど何もわからない新参者ですので、ご指導のほど何卒よろしく願いいたします。



小坂 哲也 —タイド—

3月28日に入会させていただきました小坂です。本日は貴重な例会のお時間をいただき自己紹介をさせていただきます。入会させていただいてから約2か月が経ちますが先輩方には大変優しく接していただきありがたく思っています。今後ともよろしくお願いたします。

私は1970年に香川県丸亀市で生まれました。高校を卒業後、父の出身地でもあります神戸へ移り、家電量販店に勤務し、多くの期間は空調設備関係の業務に就いていました。1995年の阪神淡路大震災を東灘区で被災し勤めていた会社も大きな被害を受けました。その時に三宮、ハーバーランドにあった大型店舗の再建、リニューアルオープンに関らせていただき、現職である建築にふれることになりました。そこでより建築に深く携わっていきたく強く思うようになり建設業界に転身いたしました。二社に勤めさせていただき営業、現場、設計、最終的には経営にも携わらせていただき大変貴重な経験となりました。心から感謝しています。その後、株式会社タイドを立ち上げ現在に至ります。2003年にはこちらにも沢山の先輩がおられます神戸青年会議所に入会させていただき2009年に副理事長、2010年に専務理事

を務めさせていただきました。

家族構成は妻と中学2年の長男、小学5年の長女の4人家族です。長男は公立中学に通いながら校外の硬式野球チームに所属しており、長女はテニスと書道をかんばっています。住まいは神戸市東灘区森北町5丁目に再来週引っ越しをする予定です。趣味はテニス、ゴルフ、旅行です。テニスはこちらにも沢山の先輩方がおられます、神戸青年会議所のテニスチームやいくつかのサークルに属し月に2、3回程度やっています。ゴルフも月2回くらい、旅行は年に2、3回家族や友人と行っています。血液型はO型です。

ここで会社の変遷をお話しします。2012年4月に設立しました。主な事業内容は新築住宅、住宅のリノベーション、オフィスの新装・改装、店舗の新装・改装、集合住宅の大規模改修工事です。同年8月にオフィスをグランドオープンしました。当時の写真がこちらです。2014年に資本金を1,000万に増資、同年6月にデザインだけでなく設計業務も内製化するために株式会社TIDE.studioを設立しました。これにより意匠、構造、法令関係もワンストップでご提案できる会社になりました。2015年4月本社を建物のプロデュース、施工、内装デザインまで対応させていただいた芦屋市春日町1-12の3階に移転しました。その建物がこちらです。2016年3月に資本金を2,000万に増資、TIDE.及び株式会社タイドを商標登録、同年5月に、より大きな規模の工事にも対応できるように特定建設業許可取得いたしました。

弊社の内容についてお話しさせていただきます。一般的に建設会社の仕事はつくる建物に対して温熱環境や空気環境等の“性能”、火災時の安全や防犯対策等の“安全性”、構造や劣化軽減等の“強度・耐久性”、建物そのものの“見た目”に注力することが多いのですが、それだけで本当にあるべき姿なのかを疑問に思っていました。この必要不可欠な要素に加えて

お客様の価値観や考え方、将来のビジョン等、後に考えられる可変的要素にも対応できるデザインの耐久性を考慮する必要性を感じています。建物は家具やインテリア、装飾品等よりも耐用年数が長く、変えることが困難です。よって、使う人・集う人等が実際に使用する状態を想定し具体的なレベルまでを考慮することで、将来の可変性に対応できる、デザインの耐久性に優れた建物の提案ができると考えています。一般的な建築会社のお引き渡しはこの写真のような感じでだと思います。例外なくこの写真の状態が使われる方はおられず、誰かが何らかの形で完成（使える状態）まで進めるのです。

ここで弊社のコンセプトPVがありますのでご覧ください。ご視聴ありがとうございました。この映像はYoutubeにもUPしていますのでご覧いただき“いいね”を押していただけると幸いです。

先ほどの映像にもございましたように、① architecture（設計、建築）② interior（内装）ここまではどの建設会社も対応している範囲です。それに加えて③ furniture（家具）④ ornament（装飾品等）を設えて初めてリアルな空間の完成となるのです。建物という耐用年数の長いものがより有効に活用できるように将来にわたる可変幅の可能性を十分に考慮し、その上でリアルな真の価値を創造する空間をご提案しております。また、賃貸マンションの大規模改修においては入居率を上げ、家賃を下げない建物の機能としての老朽化への対策を検討するにあわせてデザインの耐久性も改善できる視点をもってご提案をさせていただいています。

私とお名刺を交換させていただいた方はご存知だと思いますが、丸い穴が開いています。会社設立時は“ハコ概念に風穴を”というタグラインを設けて建設業に“風穴”開ける気概をもって新たな視点で会社づくりをしていきたいという想いで穴を開けていました。年月を重ねる中でデザインに高い意識

を持つスタッフが増えてきて、社内から勢い余って過信ともとらえることができる声が聞こえてくることもありました。お客様がいていただけることで我々は存在できているという当たり前のことを、あらためて謙虚に受け止めてもらおうと、今は、映像の中でも何度か出てきた“月”の丸でもあることも言い伝えています。月は自ら光ることはできません。お客様に照らしていただき始めて光り輝くことができることの感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと考えています。

つたない自己紹介になりましたが長時間のご清聴いただきありがとうございました。

今後ともよろしくお願い申し上げます。





第二回会員親睦会

昭和の懐かしさ満点の「クラブ月世界」で開催



6月6日(火)、神戸三宮の「クラブ月世界」において第二回会員親睦会を開催致しました。

会員 55 名のご登録を頂き、昭和の懐かしさ満点の会場で「古き良き」時代の雰囲気をお楽しみ頂きました。受付開始から開会までは「007」の映像とオールディーズの音楽を、お食事中は「裕次郎」の映像と昭和ムード歌謡を、そしてメインイベントはプロ DJ さんの軽妙なトークと音楽で「ダンスタイム。」最初はなかなか踊って頂けませんでしたでしたが、委員会メンバー

に積極的に盛り上げて頂いたこともあり、後半はフロアからステージにも上がっての「大」フィーバー（表現古いですが）となりました。限られた時間ではありましたが、楽しく過ごして頂けたのではと思っております。ご参加下さった会員諸兄、準備から設営運営までご尽力下さった委員会メンバー諸兄に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(親睦活動委員長 弘田 芳裕)





国際ロータリー第 2680 地区
2017 - 18 年度神戸第一グループガバナー補佐
野田 晴清(神戸東RC)

私の職業とロータリー活動

～神戸東ロータリークラブ・建設業(コンサルティング)～

○職業

入会時：清水建設(株)神戸支店 副支店長

H06.04.19

退職時：清水建設(株)建設事業本部

四国担当 役員待遇理事

転職：(株)吉川カントリーゴルフクラブ

代表取締役社長 H07.06 - H17.06

自社設立：(株)エヌビーシー

代表取締役社長 (コンサルティング)

H29.06 現在に至る

(株)Forchile 取締役顧問 技術部担当

H29.06 現在に至る

○ロータリークラブ

神戸東ロータリークラブ H06.04.19 に武藤会員、小泉(進)会員の推薦にて入会、悉皆番号 440、親睦委員会でスタートし、平成 20 年会長、17 年副会長、16 年幹事、22 年会計、14 年社会奉仕委員長、12 年職業分類委員長、11 年プログラム委員長、13 年 R 財団委

員長、27 年 R 情報委員長、未来委員会立ち上げ。

○地区とクラブ活動

- ・久野ガバナー年度 総務幹事 2011 - 12 年度
- ・ガバナー補佐エレクト 2016 - 17 年度
- ・神戸東クラブ会長として創立 55 周年
- ・神戸東クラブ創立 60 周年実行委員長

○職業人として

入社後、建設業は現在のような輝かしい時代ではなく、建築・土木共に古い時代でした。労協はあっても名ばかりで、休日は年に 10 日あれば良い方でしたが、昭和 40 年代からは技術的にも経済的にも素晴らしい進歩でした。「万博」「オリンピック」高度成長時代は毎日が浮かれたようでした。印象として強く残る建物は、日本銀行松山支店建替工事でした。建物その物が壊せないように造っているものを解体するのですから大変でした。今どきのビルは 100 万/坪でしたが、当時 2,000 万/坪でした。また、松山市の正岡子規記念博物館建物と展示品も受注したのですが、短詩文学など習った事もないので、企画し検証し実証し展示することでした。

・ゴルフ場では、建築・土木と違い、芝生とか木々との対話で、一番苦労したのが芝生造りには土壌造りがかかせない事を知り、物事全てが深い物だと感心した。一般経営からサービス業へと移り変わって業務が大変でした。

・エヌビーシーは、コンサル業として、多角に顧問として活動しています。

・(株)Forchile は若い事業者のサポート役として発電所等の建設ソーラー、風力発電も取り組み中で、今後はもっと高く経営に取り組み中です。

○ロータリークラブ活動

入会は、H06.04.19 ですが、H04.11 頃から入会依頼

はあったが、諸事都合上、2年半経過後に再度勧めがあり、入会初の例会で出席。しかし推薦者の2名共に欠席で紹介もなく寂しく入会したのですが、必要としているのかと、このようなクラブでは楽しく活動もできないなど、半ば退会もと思うこともあり、諸事から欠席も多く、熱心に活動はしていませんでした。

ある時家族旅行がありまして、泊りで夜の宴会時に新入会員として指名を受け、余興を添えたその時に故三好会員に声をかけて頂き、懇意にして頂きました。これからの神戸東をたのむと依頼を受け、君はゴルフ場だから毎日暇だろうと勝手に決められ、それから以降毎日、2時間余のTELでのレクチャーを2年間受け、R.Cの事が良く見えるようになりました。三好会も2ヶ月に1回集まり、勉強会を実施した記憶があります。

その後はR.Cに徹するようになり、前記紹介の通り、会長、副会長、幹事、各委員長と経験をさせて頂き、会長の時は、神戸東が創立55周年を迎え、小倉先輩が実行委員長として輝かしい周年行事を成功させていただきました。

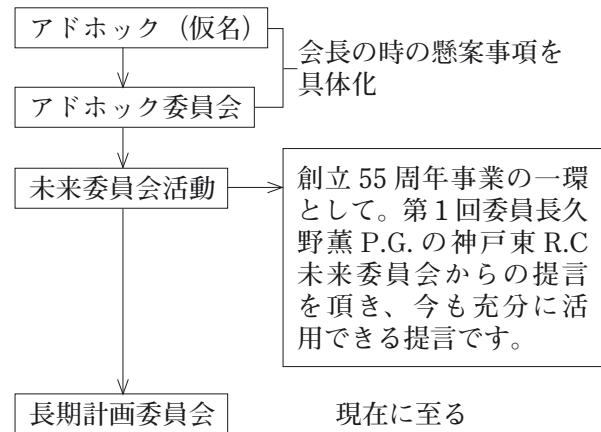
- 主にオーストラリア、ブリスベンR.Cとの姉妹クラブの調印

- 未来委員会として久野委員長が神戸東R.C未来委員会からの提言（その①）にて55周年記念誌を充実していただきました。

また、神戸東R.C創立60周年では実行委員長として

- 温故知新をテーマとして「心」を
- インクルージョン社会を目指して、講師 細川佳代子先生の記念講演が大成功でした。

神戸東R.Cの長期計画委員会の変遷



55周年記念誌に、神戸東R.C未来委員会からの提言（その①）として掲載されています。今日の今通用する提言であり、委員会構成の皆さんの意見の要約等も克明に示されています。一読の上今の委員長及び委員の活動の一条として頂きたい。

○2017年ー2018年度活動について

2680地区神戸第一グループのガバナー補佐として活動いたします。

第一グループは、神戸R.C、神戸東灘R.C、神戸南R.C、神戸六甲R.C、神戸ベイR.C、神戸東R.Cの6クラブ計、会員数441人です。

補佐としては、各クラブ全員の声を聞き取り、吸い上げ、ガバナーに正確に伝え、ガバナーの意見も会員の皆さんにフィードバックするつもりです。

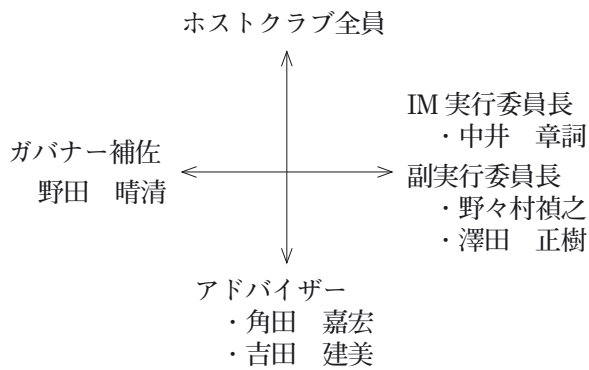
久野ガバナー年度以来IMを実施していません。若い会員も増えています。インターシティミーティングを実施して、これからの神戸東R.Cのために活動をしていきたいと思っています。今年度理事、次年度理事にもお願いして、全員参加、全員登録を目指し、実行委員長の中井会員も着々と計画を練り、プログラムが案として出来上がってきています。



○インターシティミーティング (IM) 予定

2017年—2018年度

- 開催日 2017年11月18日(土)
- 開催時間 13:30 受付開始 14:00 開会
16:45 閉会 17:30 懇親会
- 会場 アリソンホテル神戸 5階
カスティーリア
- 懇親会 ビールパーティ、軽食程度
- 実行委員会



○テーマについて<確定はしていません (案)>

- 基調講演 久野薫パストガバナー
中村尚義パストガバナー
を予定しています。

- (案)・世界のロータリー・日本のロータリー
- ・定款・細則の変遷から読み解くそのあるべき姿
 - ・各クラブから選出されたパネラーによるディスカッション

以上、この1年間宜しく御指導、御協力を賜りますようお願いいたします。

第 22 回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭参加報告



平成 29 年 6 月 17 日(土)に開催された「第 22 回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」に応援団を含め総勢 42 名で参加してきました。

合唱祭は、「滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール」にて 12:30 分に開演され、総参加合唱団 29 チーム、総人数約 500 名の演奏が行われ、予定時間から約 30 分程度遅れて、18 時頃に終了し、引き続いて懇親会が「びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海」にて 500 名超の参加者により 19 時頃から開催されました。

JR 大津駅でのタクシーの待ち時間が想定外に長かったので、会場到着が予定の 10 時よりも少し遅れましたが、特に混乱もなく受付を済ませることが出来ました。場立練習は予定通りの時間に行い、その後、少しでもリハーサル時間を長く確保しようとして、昼食後すぐにリハーサル室に向かいましたが、リハーサル室には予定よりも早く着いたものの、リハーサル室の担当者からは練習時間は割り当てられた時間通りしか与えられず、期待外れになりましたが、それでもリハーサルは一通り行うことができました。

当クラブ合唱団は、開演後 13 番目に出演し、指揮：西村雅子、ピアノ：片桐えみ、男声 11 名、女声 15 名により、関本会員のギター伴奏を生かして若々しく歌う「心の旅」と、故郷からの旅立ちの朝を想っ

てしっとり歌う「風は旅人」の「旅」をテーマとした 2 曲を演奏しました。

本番での出来もかなり良く、講評の先生からは大変お褒め頂きましたが、声量を増やすことが今後の課題のようなコメントも頂きました。

合唱祭の閉会が遅れ、びわ湖ホールから懇親会会場への移動にも少し混乱がありましたが、演奏の出来も良かったので、気持ちよく参加した懇親会では、ご用意いただいたお料理とお酒を堪能し、余興では、当クラブの披露した「六甲おろし」や他クラブの合唱チームの余興への飛び入り参加等で、例年の通り大いに楽しみました。懇親会の閉会時間も遅れたので、閉会まで残って、当日帰宅されたメンバーは相当疲れたことと思います。

なお、当日の代表者会議で、来年の第 23 回親睦合唱祭は、福井南 RC の主催で 6 月 2 日(土)に、福井ハーモニーホールでの開催と決まりました。また、2 年後の第 24 回合唱祭は、郡山南 RC の主催で 5 月 25 日(土)に開催(場所は未確定)と決まりました。この親睦合唱祭の主催を引き受ける RC が、次々と手を上げているようですので、継続性の不安が消えたようです。(神戸東ロータリークラブコーラス同好会 世話人 榊原 志朗)



▲ 2月14日「建設会社の新技術—建築の新しい価値:ABC—」
清水建設(株)常務執行役員・技術研究所長 石川 裕 氏



▲ 3月14日「ロータリー雑感」
角 田 嘉 宏 会 員



▲ 2月21日「AI、ディープラーニング」
山 本 裕 計 会 員



▲ 3月21日「前立腺について2」
後 藤 章 暢 会 員



▲ 2月28日「新生スカイマークと『日本型バイアウト』」
インテグラル(株) 代表取締役 佐 山 展 生 氏



▲ 3月28日「カプセル型内視鏡」
三 戸 岡 英 樹 会 員



▲ 3月7日「不動産の評価について」
土 田 剛 司 会 員



▲ 4月18日「ロータリー雑感」(山とワインとロータリー)
今 井 拓 雄 会 員



▲ 4月25日「本屋の話」

工藤 恭孝 会員



▲ 6月13日「治安をめぐる5つの謎」

第88代元警視總監 池田 克彦 氏



▲ 5月9日「お菓子作りと職業奉仕」

福原 敏晃 会員



▲ 5月16日「世界市民教育者を目指して」

国際ロータリー第2680地区 ロータリー財団奨学金(タイプ2)
奨学生 小川 優 氏



▲ 6月20日「例会議決案件」

第1号議案：細則改正の件
第2号議案：IM開催協力の件



▲ 5月23日「兵庫の城跡と社寺仏閣をめぐる」

壺井 醇 会員



余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年一月二十六日

於 メリケンパークオリエンタルH 石庭

震災の記憶は永久に月冴ゆる

本郷 桂子

添ふ星もなく中天に月冴ゆる

執行 執艸

白波の寄する灯台風冴ゆる

高石 潜菴

冴ゆる夜の対岸の島きらめきて

白羽 子誠

独楽樂し廻ることのみ考へて

角田 伯堂

新年の句会のうれし皆の顔

則岡 弘士

独楽の影微動だにせず空青し

壺井 仙岳

山頂に初詣かなすがすがし

松谷 泰山

門付けの笛の音遠く星冴ゆる

吉井 聖倅

月冴ゆる光の軌跡輝けり

松原 氣宏

紅葉の古里うかびなつかしむ

池西 清栄

藪入てふ言葉遙けし世の移り

橘 恵子

諦めて放り出されしままの独楽

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年三月十日

於 西村屋 花みかげ

雨止みて又雨の降り木の芽吹く

本郷 桂子

春一番行手は麻耶か六甲か

執行 執艸

春一番上州風と競ひ合ひ

高石 潜菴

春一番島動き出す瀬戸の海

白羽 子誠

木の芽にも思ひのありて天を指す

角田 伯堂

窓越しの日差し明るく春の色

則岡 弘士

北山の雪に埋もれる暮しあり

壺井 仙岳

梅の香や青岸渡寺に雨落ちる

松谷 泰山

春一番には成りきれず今日の風

吉井 聖倅

淡雪や天使の羽根の見えかくれ

松原 氣宏

芽吹く木々あれこれ眺め遠回り

池西 清栄

右近忌や雪の別れの豊能町

橘 恵子

過ぎ去りて春一番でありにけり

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年四月七日 於 西村屋 花みかげ

思はざる訃報届きし花の雨

本郷 桂子

散髪の鉄のリズム春眠し

執行 執艸

風船を握る赤子の手の力

白羽 子誠

オフェリアが狂うて咲くかフリージア

角田 伯堂

髪を梳く鏡の角に春の月

則岡 弘士

行春や逝く友のあり雲一つ

壺井 仙岳

一面の菜の花畑彩かに

松谷 泰山

林間を駆け抜ける汽車花の風

関本 剛紀

春暁の昭和の音色汽笛鳴る

松原 氣宏

咲き満ちて菜の花香る淡路島

池西 清栄

畑隅に暮れ残りたる花菜かな

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年五月十二日 於 西村屋 花みかげ

新緑の匂ひ動かし山雨急

本郷 桂子

楽しみは大人にもあり子供の日

執行 執艸

全山を新緑となす陽気かな

白羽 子誠

新緑のもこもことある佐賀の山

角田 伯堂

木洩日の一筋三筋柿若葉

則岡 弘士

新緑の力強さに息を継ぐ

壺井 仙岳

風なびく新緑の香のせまり来る

松谷 泰山

今昔の水面に揺れる鯉のぼり

関本 剛紀

新緑を身体中浴びハイキング

松原 氣宏

男の子あの家この家こひのぼり

池西 清栄

嶮に誘はれ開く厨窓

橘 恵子

村野 離翔



絵と文 鈴木 祐一

「ポインセチア」

数年前に家内がクリスマスに購入したポインセチア。
少々気になり、年末年始に一気に書き上げた小品です。

CONTENTS

3 役退任挨拶	1
創立記念家族例会	5
「三東会」設立報告	7
会員随想	
「神戸東RC昨日・今日・明日」	8
新入会員自己紹介	11
第二回会員親睦会	17
「ロータリー雑感」	19
親睦合唱祭参加報告	22
例会スナップ	23
余韻会	25

編集後記

第3号の会報をお届けいたします。今年度横山会長のテーマ「楽しもう、そして何ができるか考えよう！」のもと数々の事業が行われました。委員長としての職務上撮影取材にできるだけ参加をさせていただき、大いにロータリーライフを堪能させていただきました。ロータリークラブはやはり参加することにあると思います。

会員の皆様には原稿等のご協力、1年間本当にありがとうございました。

会員随想「神戸東RC 昨日・今日・明日」の最終は平成元年ご入会の須藤会員に眼力のあるロータリー論を語っていただきました。「ロータリーはやはり楽しくなければ」と思う今日この頃です。

雑誌会報委員長 石橋 恒生